

## 武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度のスタートから6年目を迎えた今年度は、多くの方が気軽に参加できるよう、連続講座ではなく1回完結型の特別講座を開催していきます。

## 特別講座「雨とニオイと下水道～写真家が肌で感じた世界」

レポーター：水の学校サポーター 新保さん

9月21日（土）、下水道写真家の白汚零さんを講師に迎えて特別講座を開催しました。白汚さんの作品撮影エピソードを通し、普段目にする機会の少ない下水道の世界を紹介していただきました。後半はNPO法人雨水市民の会の笹川さんをコーディネーターに、武蔵野市の職員から市の下水道やまちなかの臭気対策について説明し、それに対して白汚さんから関連エピソードを話していただくトークが行われ、見えにくい下水道の姿をビジュアルに感じることができました。

### 作品撮影エピソードからみえる下水道

講師：下水道写真家 白汚零さん

18歳で上京したとき、住まいの近くで下水道工事を行っており、漂ってくる臭いといわく言い難い魅力を感じたのが、この仕事に入ったきっかけです。何とか頼み込んでマンホールの中に入れてもらい、暗闇、狭さ、音、臭いに魅惑されました。その体験が忘れられず、下水道清掃のアルバイトを始め、いろいろな表情の下水道の姿を伝えるには、写真が一番力強いメディアであると考え、独学で写真を勉強しながら撮り続けました。

撮った写真とコラムを専門誌に書き、写真展を開催し、各種の賞を受賞しました。当初はマンホールの蓋に開いた小さな穴一つ一つから光が差し込む様子などをモノクロフィルムで撮っていましたが、明治17年にできた神田下水の煉瓦の色に心を奪われ、カラーでも並行して撮るようになりました。約30mの高低差を螺旋状の水路で緩やかに落としている柳瀬幹線（東村山市）、下水道施設として唯一国の重要文化財に指定されている三河島水再生センター旧ポンプ場施設（荒川区）、見学できる唯一の下水道である蔵前水の館（台東区）、S字状にカーブする連結管の和田弥生幹線（杉並区）、スワール分水槽（練馬区）、石組みが残っている千駄ヶ谷幹線（渋谷区）等下水道の世界を撮ってきました。

地方でも、足掛けのない大須の煉瓦人孔（名古屋市）、明治33年に築造された片平丁幹線（仙台市）、かまぼこ型の煉瓦下水道の定禅寺通幹線（同）、秀吉の時代に作られた太閤下水（大阪市）、馬蹄形渠が円管に変化し、約110度折れ曲がり勢いよく流れ込むXV-1000（札幌市）、掘割川への雨水吐き（横浜市）等魅力的なスポットが多くあります。武蔵野市が管轄している女子大通り幹線の老朽化により鉄骨がむき出しになっているボックスカルバートも挙げられます。

※下水道課注：女子大通り幹線は平成25～30年度にかけて、鉄骨がむき出しになったところ等に対して補修工事を行っています。



### 武蔵野市下水道トーク

コーディネーター：NPO法人雨水市民の会 笹川みちるさん

#### 「武蔵野市の下水道について」

話題提供：武蔵野市環境部下水道課長 源田綾子

武蔵野市の下水道事業は昭和27年に着手し、昭和62年には東京23区より早く普及率100%を達成しました。市内には下水道処理場がなく、東京都の水再生センターに処理を依頼しています。市の下水道の9割以上が汚水と雨水を一緒の管で流す合流式で、改善策として①雨水浸透施設の設置、②合流改善施設の整備、③雨水吐き室への水面制御装置（スクリーン）の設置を実施し、当初の改善目標は達成されましたが、2043年には雨水の下水道への流出率を現在の51%から、40%へ削減することを目指して更なる改善に取り組んでいます。

#### 「武蔵野市の臭気対策について」

話題提供：武蔵野市環境部下水道課水循環推進係 中川貴之

吉祥寺駅周辺の臭気の原因の多くは、地下施設のビルピットで生成される硫化水素によるものです。平成28年度以降、更に地域（吉祥寺活性化協議会）と市が連携して、ビルピット改修に向けた臭気対策を実施しています。この結果、今年の夏までに吉祥寺駅北口周辺は、高濃度の硫化水素の出ている建物がほぼ改善しました。こうした取り組みは全国的にも注目されており、今年2月「吉祥寺No！ニオイ宣言」と地域がネーミングし、今後このフローが廻ることによって引き続き臭気のない吉祥寺となっていくことを期待しています。

#### 白汚さんより

合流式・分流式下水道については、写真を撮るという視点から見ると、降雨時に下水道管に大量の水がダイナミックに溢れる合流式が魅力的だと思っています。現在の下水道施設は昭和39年のオリンピック前に急遽整備したものであることから、一斉に改修するタイミングに至っており、今後は維持・管理の時代がやってきます。なお、下水道は、臭くて汚いとのイメージとは異なり、スムーズに流れている限り、汚物の臭いは殆どしなくて、シャンプーや石鹸等の化学物質が分解せずに臭う程度です。